ぐんま経済新聞平成23年7月7日発行

ぐんま経済新聞　（第三種郵便物認可）

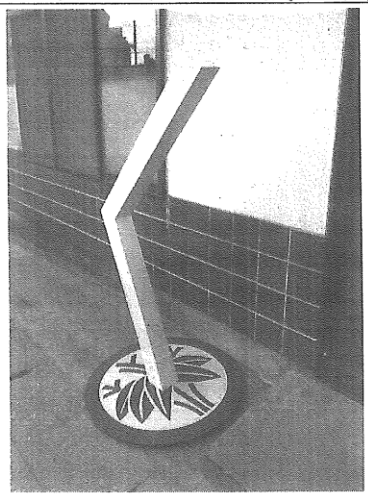
製造・ソフト

感性を形に！県立女子大と連携しアート作品

精密板金の山﨑製作所

産学連携授業で技術指導も

「湯けむりとアート展」に初展示



高橋綾准教授（文学部美学美術史学科）の作品

山﨑常務

精密板金加工の山﨑製作所（高崎市吉井町小暮105－1、山﨑豊社長☎027～388～3131）はこのほど、県立女子大（佐波郡玉村町）の高橋綾准教授（文学部美学美術史学科）と連携しアート作品の製作業務を開始した。4月30日から6月28日までの2カ月間、伊香保温泉で行われた同温泉と県立女子大のコラボレーションプロジェクト「湯けむりとアート展」では複数の作品を製作し展示。注目を集めたほか、感性を形にする確かな技術力が評価され、新たな注文も舞い込んでおり、山﨑将臣常務は「現在、中小製造業界では後継者・若手人材不足が深刻だが、技術力を生かした事業ができている。それを、若い人たちに知ってもらえるきっかけになれば」と意気込んでいる。（塚越吉洋）

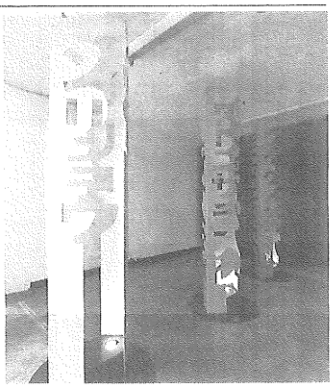
同社は1957年に創業。現在は試作品などの一点ものを中心に、レーザー切断から曲げ、溶接と一貫生産しており、小回りの効く体制を武器に、250社の取引先を持つ。こうした事業展開の中、高橋准教授との出会いは昨年、同教授が講師を務めていたビジネスデザインセミナーに山﨑常務が出席したことから。セミナー終了後、産業展などに持ち込む製品デザインについて相談したところ、的確なアドバイスを受けただけでなく、逆に「アート作品の製作は可能か」と話が進展し、タッグを組むこととなった。

その後、同教授が持つ産学連携（企業と大学とのコラボレーション）授業に参加し、特別講師として生徒たちに板金技術とはどういったものかを指導。アート作品にも不可欠となる現場のものづくりについて、理解を求める授業を行っているほか、実際に生徒の作品を形にするプロジェクトも実施している。

一方、同社製作品の初の晴れ舞台となった「湯けむりとアート展」では高橋准教授の、家紋の上に人がお辞儀をイメージした「く」の字のオブジェを載せた作品や、同大学の非常勤講師で、実践女子大の下山肇准教授が考案した、見る方向により異なった文字が浮かび上がる空間造形などを製作。いずれも伊香保温泉の石段街に新設されたギャラリーや、料理店の軒先に展示され、人目を引いた。

今回の提供作品について「震災の影響もありイベント自体の開催も危ぶまれ、結果短期間での製作となったが、作家さんの想いとイメージを大切に製造のプロとしての意見も細かく組み込みつつ製作協力させてもらった」と山﨑常務。こうした柔軟な対応が評価され、新たな製作依頼も舞い込んでおり、今後も積極的に協力していく方針だ。

山﨑将臣常務の話　アート作品自体が大きな商売になるとは考えていないが、中小企業の技術力を一般の人に知ってもらういい機会だし、そこから得られる創造性と刺激により従業員のモチベーションアップにもつながる。今後も継続し、若い世代に日本のものづくりを〝クールだ〟と感じさせられる企業になれれば。



実践女子大の下山肇准教授の作品

社

県プラスチックス工業振興協会（事務局・県工業振興課内）の会員7社と群馬産業技術センタ

創意工

県工業
ど、文
ある「創
の推薦
した。
同賞は
工夫に
の向上」
「コスト
利用資
おいて
を表彰
他薦は
募集
で。詳
県工業
☎027
52へ。

生

上の付
品を開
しい市
く方針
大会
環境大
われ、